

物流博物館 NEWS VOL.5



春の小学校・見学特集

新学期も始まり、若葉がさわやかな季節となりましたが、みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

物流博物館ニュース5号をお届けします。当館では平成10年に開館して以来、運輸について社会科で学習する小学校5年生を中心に学校団体見学の受入を積極的に行って

います。今年度からの新指導要領では、運輸の学習内容が変わり、総合学習の本格的な導入によりさまざまな意味で博物館の利用の仕方にも変化が生じるものと思われます。

今号ではそうした動きに対応した博物館の取り組みと昨年度の見学の様子をご紹介します。



いろいろな「はこぶ」を体験したよ！



上の写真は昨年度当館を見学に来た子どもたちが体験した「はこぶをきわめる体験キット」の様子です。左上の写真の女の子は「ふるしき体験キット」の風呂敷で一升ビンを包んでいます。右隣は「はこびくらべ」で米俵を担いでいるところ、左下は背負いばしごや背負いかご、右下は

天秤棒の真中にもっこを吊り下げて二人で運んでいるところです。子どもたちははじめて見る道具に興味津々で、担いだり手に持ったり抱えたり、そして「重い！」などと歓声をあげ、道具の工夫に感心していました。

学校見学ダイジェスト

平成13年度は55校、約3100名の児童の皆さんが当館を見学してくださいました。地域別では都内が最も多く、次いで千葉・神奈川・埼玉の順となっています。昨年度の見学の様子をご紹介します。

1. 見学の実際

当館を見学する際の最も多いパターンは、館内の映像展示室で「物流ってなあに」及び「いろいろな輸送」といったビデオ作品を2本見た後、物流の歴史及び現代の物流を紹介した2つの展示室を学芸員が案内し、最後に子供たちが自由に見学する時間（フリータイム）を設けるというものです。展示室を見る際には当館オリジナルのワークシートを利用された学校が多く、フリータイムでは子どもたちが自由にビデオを見たり、資料を観察したり、冒頭に挙げたような体験をしました。下に示したのは昨年度に見学して下さった千葉県のある小学校の例です。

この学校は見学時間を比較的長くとることができたので、いろいろな見学メニューを設定しました。

<見学の進め方ー千葉県A小学校の場合ー>

見学者数：30名

見学時間：10時～14時

10時00分～12時00分＝見学・宅配便Q&A

12時00分～12時30分＝館内で昼食

12時30分～13時＝映像視聴

13時00分～13時30分＝しらべ学習(フリー)

13時30分～14時＝体験キット(ふろしきなど)

見学方法：3つの展示室(「物流の歴史」展示室/「現代の物流」展示室/映像展示室)を40分ずつまわった。歴史と現代の展示室では、学芸員が展示解説を行い、館で作成したワークシートを利用した。映像展示室では、宅配便の会社から講師を招き、子どもたちの質問に答える時間を設定した。昼食後は、物流を紹介したビデオ2本を上映後、フリータイムとし、個人別に調べを進めた。最後にふろしきキットをはじめとする体験キットを実施した。



「物流の歴史」展示室

先生方の声・子どもたちの感想

物流博物館では、今後の見学対応に役立てるため見学校にアンケートをお願いしています。昨年度は107名の先生方からご回答をいただきました。その中から一部抜粋してご紹介します。

先生方…ワークシートは博物館を目的をもって見学する上で、また案内をしっかりと聞くという上でも、役だったと思う。／説明はもっと短くして、子どもが尋ねてきたら答えて頂く方が良かったかなと思う。／歴史に触れてもらったことは6年の学習へつなぐことができる。／実際に学校では見られない物も見て、触って確かめることができた。／運びくらべ、ふろしき等の体験はできれば多くの児童にさせたい。歴史は子どもたちも興味深かったようだ。／一人一人の子どもたちの疑問を解決にまで導くというのは、学校でも大きな課題になっています。ヒントカード(後述)はとてもよいアイデア。いろいろな方法で調べられることを学べてよかった。／総合的な学習の時間にも役立つ。

子どもたち…とくにおもしろかったのは、俄かつぎでした。本物を見たのは初めてだったので、すごいと思いました。でも重かったです。／この物流博物館で一番気に入ったのは、配達する人の服を着ることができるということでした。ぼくは、上着からズボンまで全部着てみましたので、すごくおもしろかったです。／一番印象に残ったのは、昔の輸送機関と今の輸送の方法がまったくちがう事です。特に、昔の人は機械がなく、人の力と手で何でも運んでいたことにびっくりしました。

2. 見学の新しい動き～総合学習の影響か～

昨年度の見学校の中には、今年度からの総合学習の本格的な導入に先立ち、運輸の学習とあわせて総合学習での課題解決のため当館を利用された学校がありました。また、総合学習における課題解決のための訓練を意識されている先生も多く見られ、当館では以下のように対応しました。

・増えてきたしらべ学習と「ヒントカード」

前年度に比べて、さらに「しらべ学習」が増えてきました。個人や班ごとに調べる課題を持って来館し通常の見学コース終了後、展示パネルやビデオ、図書コーナーの資料を使って解決していくことが多いのですが、限られた見学時間の中で効率よく調べを進めてもらうため、当館では「ヒントカード」を作成しています。ヒントカードにはどの資料を見ると課題解決につながるよということを記し、場合によっては長年運送会社で関連業務に携わってきた副館長に直接インタビューしてもらいました。

・ドアツードアのグループ行動

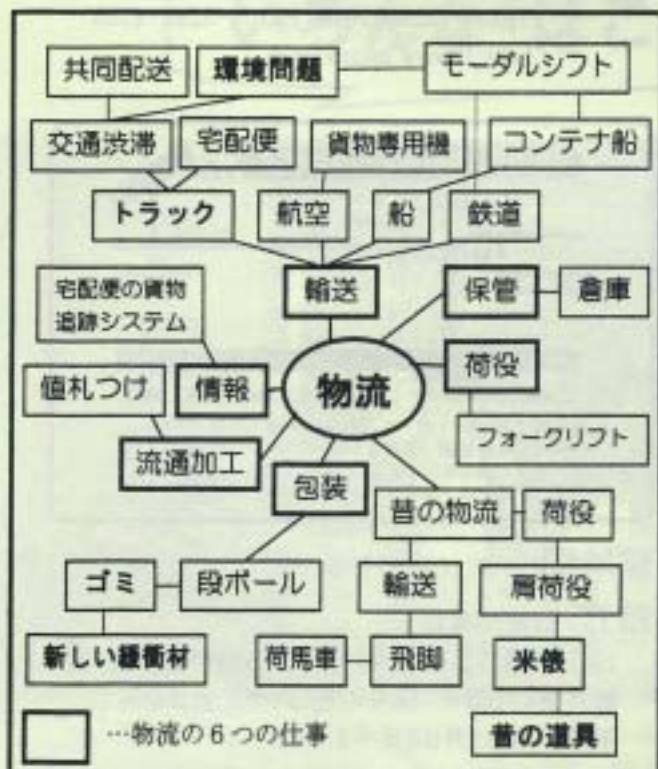
学校を出発してから当館を見学し学校に戻るまで、班で行動するという学校も数校ありました。その際には、時間を決めてビデオ上映をし、ギャラリートークのような形で学芸員が展示解説を見学時間中に数回行い子どもたちが選択する方法を取りました。子どもたちに主体的に行動してもらおうという先生の考えで実際子どもたちからは積極的に質問が出ていました。

今年の新しい取り組み

新学習指導要領では、5年生で学習する運輸は各産業ごとに取り上げられるようになり、また総合学習が始まるなど大きく変化しました。日常生活との密接なかかわりが深い物流産業は5年生だけでなく各学年でも関係してくる可能性が予想されます。こうした動きに対し、昨年度から準備をすすめてきた当館の取り組みを紹介します。

1. 活用委員会～総合学習への取り組み～

当館では開館当初より、学校団体見学を受け入れてきましたが、従来から、ただ見学するだけでなく、子どもたちが主体的に働きかけのできる展示や、先生と連携して子どもたちと双方向でやりとりのできるような学習プログラムを開発する必要性を感じていました。夏休みには引越しや美術品輸送の仕事が子どもたちが体験できる講座を毎年開催していますが、団体見学時にも実施できるものを先生方と協力して開発したいと考えていました。またこれらは総合学習にも役立つのではないかと考え、去年の6月頃から港区教育委員会に相談に伺い、10月には「物流博物館活用委員会」と称した、総合学習及び教科の学習において、当館を活用したプログラムの開発について検討するための会合をもつことができました。委員は小学校の校長先生、研究者、博物館雑誌の編集者の方にお願ひし、当館副館長及び学芸員2名の計6名で構成され、委員会は月1回のペースで行いました。「物流」は幅が広くいろいろなところで生活と関わってくる産業です。物流から広がっていく事柄を「クモの巣」に例えて図に表し、この図を切り口としてプログラム案を検討しました(別紙「物流博物館における学校活用資料」参照)。



物流を中心とした「クモの巣」図

この委員会では、さまざまなご指摘を頂き、いろいろなアイデアが飛び出して、今後の館の活動に影響を与える非常に有意義な会合となりました。総合学習に対しては、子どもたちの課題設定のきっかけになるように、また子どもたちからくるであろうと予想される質問に対して資料をそろえておくのはもちろんのこと、子供たちからの問いかけに対してただ答えるのではなく、子供の考えが広がっていくような働きかけができるものと考えています。別紙に、準備を進めているものも含めて、くわしい内容を紹介しています。

2. 体験キットの充実

昨年度は文部科学省の「親しむ博物館づくり事業」の委嘱を受け、「はこぶをきわめるプロジェクト」と題した事業を行いました。同事業では夏休みには物流ターミナルの見学会や体験講座を行い、学校見学が多くなる秋から冬にかけて3つの体験キットを製作し見学時に実施しました。冒頭で紹介した天秤棒・背負いはしご・米俵・背負いかごなどを運んでみる「はこびくらべ」、ふろしきで一升ビンや自分のリュックなどを包んで担いだり運んだりする「ふろしき体験キット」、宅配便各社の制服を着てその秘密を探る「変身キット」の3種類です。「はこびくらべ」の荷物の重さはすべて10kgにしています。今後も引き続きさまざまな「はこぶ」を体験できるキットを製作していく予定です。

また、この事業の報告書をご希望の方に差し上げております。お問い合わせください。



体験キット「はこびくらべ」の道具



変身キット・これは何に使うのかな?

3. 産業と物流Q & A

昨年度までは運輸の学習で宅配便のしくみを勉強することにあわせて日本通運㈱で宅配便を担当している社員に子どもたちが直接質問をぶつけてみるという「宅配便Q & A」を希望の学校に実施していました。今年からは運輸の学習内容が変わるため、宅配便に限らず各産業の輸送に携わっている担当者を招き、子どもたちが直接質問してみるということを計画しています。

＜人気の展示＞

アンケートの集計結果をもとにご紹介します。

物流ターミナルジオラマ模型

空港・港・トラックターミナル・鉄道貨物ターミナルを150分の1の模型で表現した陸海空の大型ジオラマ。

カーゴ君の物流ゲーム

海外へ早く安く荷物を運ぶために輸送手段を選びます。

みじかな物流宅配便コーナー

宅配便の制服を着ることができるとなる変身キットは大人気。

むかしの荷物

ダンボールがなかった時代の荷物「木箱」。わらが緩衝材として使われています。他にも鮮魚が木樽に入っていたり、野菜が竹カゴに詰められている荷姿の写真は、今の荷物と比べてみると面白い！

ビデオブース

物流に関する5本のオリジナルのビデオ（1本5分程度）を見ることができます。宅配便、会社の活動を支える物流、生鮮品の輸送、パソコンができるまで、バイク便・ひっこし・トランクルームなどを紹介した作品。

大型ジオラマ解説映像

鉄道貨物ターミナル・トラックターミナル・コンテナ埠頭・空港をそれぞれ紹介したビデオ作品。

※当館ではワークシートなどが掲載された『社会科学見学の手引き』を発行しています。ご希望の方はお問い合わせください。近日中にはHPに掲載する予定です。



人気の「陸海空の物流ターミナル」大型ジオラマ（部分）

陸海空の物流ターミナルを鳥の視点で見ることができます。物流が24時間動いていることを表現するため、模型でも夜になり朝がやってきます。細部が動く仕掛けになっていて、ビデオモニターで各ターミナルの実際の様子を見ることもできます。

特別展 日本通運㈱所蔵

横浜浮世絵コレクション展



歌川芳巖「亞米利加国大船之図」文久元年(1861)3月

現在物流博物館では、横浜浮世絵を紹介する特別展示を行っています。安政6年(1859)に横浜が開港するとまもなく、同地の外国人風俗を主な題材とした浮世絵版面が次々と刷られました。日本通運株式会社が所蔵する500点近い横浜浮世絵コレクションの中から約300点を選び、会期を2期に分けてご紹介しています。

第1期 2002年3月30日(土)～5月6日(月)

第2期 2002年5月14日(火)～6月16日(日)

休館日 月曜日、5月28日

5月7日～13日は展示替えのため休館

物流博物館のご案内

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15

TEL03-3280-1616 Fax03-3280-4385

<http://www.lmuse.or.jp>



開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日

（但し月曜日が祝日・振替休日の場合は、その翌日）

毎月第4火曜日、祝日の翌日（但し土日を除く）

年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 小中学生:100円(第2・4土曜は無料)

高校生以上:200円(いずれも団体20名以上半額)

※学校関係の団体は入館料が免除になります。